

4年ぶりの開催 第6回オーストラリア海外研修

◇期 日：令和5年3月4日（土）～12日（日）

◇場 所：オーストラリア ニューサウスウェールズ州コフスハーバー
パートナー校 セント ジョンポールカレッジ

◇参加者：本校1・2学年生徒 20名（1学年6名、2学年14名）

◇引率者：岩崎剛大先生・阿部充晴先生

新型コロナウイルス感染症の拡大のため、令和2年の第5回オーストラリア海外研修が出発直前に中止となって以来、今回4年ぶりに海外研修が再開されました。今回の研修では感染症対策などの準備に時間がかかりましたが、それ以上に、海外研修に行くことができることへの期待が大きくなっていきました。事前研修として、メンバーは現地で発表する各自の研究テーマについて準備を行いました。その量の多さや内容の深さからも、それぞれの研修への期待の大きさが伝わってきました。

研修初日、羽田空港の第3ターミナルには多くの外国人がいました。私たちの最初の課題は、ターミナルにいる外国人に英語で話しかけることでした。私たちは先生方の期待以上に積極的にコミュニケーションをとり、その様子からはこれから始まるオーストラリアでの研修へのみんなの意気込みがひしひしと伝わってきました。

長時間のフライトの後、翌日シドニーに到着し、そこから1時間のフライトでコフスハーバーに到着しました。ホストファミリーとの対面を前に、期待の中にも緊張しながら、空港内を歩いていると、窓ガラス越しに大きなローマ字でメンバーの名前を書いたカラフルな紙が見えました。緊張が一気にほぐれ、出口に近づくと、大勢のホストファミリーがとてもあたたかく、私たちを迎え入れてくれ、感激の中で私たちのコフスハーバーでの研修が始まりました。



月曜日から金曜日までは、パートナー校のセント ジョンポールカレッジで研修を行いました。

6日（月）は朝のホームルームに参加した後、日本で行ったグループ研究を発表しました。私たちは、大勢の現地校生徒の前で、問いかけたり、歌を歌ったりしながらプレゼンテーションを行い、大いに盛り上がった状態で発表を終えることができました。途中の休憩時間には、現地校の生徒達が私たちの周りに集まってくれて、とてもにぎやかな時間となり、私たちの顔には自然と笑顔が溢れてきました。

7日（火）は、バディと共にドリゴ国立公園で研修を行い、熱帯雨林の中を散策しました。一見立山の室堂とそっくりで驚きましたが、熱帯雨林独特の植生が広がっ



ており、大変興味深い発見が数多くありました。

8日(水)の朝には全校集会があり、そこで書道パフォーマンスと3種類のダンスを披露しました。現地校の生徒はノリが良く、約1100人が入った体育館は熱狂に包まれ、パフォーマンスは大成功でした。その後バスでドルフィンマリンコンサベーションセンターに移動して研修を受けました。とても早口の英語での解説を聞き取るのに苦労しながらも、海洋生物の観察や環境問題への理解を深めることができました。お昼ご飯を食べていると、野生のクジャクがえさをねらって近づいてきたことに驚きました。午後からは、サザンクロス大学の研究員と共に海岸での海洋生物の調査を行いました。どこまでも広がるビーチにオーストラリアの広大さを感じながらの海洋調査は、英語での説明を聞きながら、研究員が実際に使っている道具を用いて、同じ方法で調査を行いました。夜には、先住民アボリジニーのガイドの方とともにマトンバードの観察を行いました。伝統楽器ディジュリジュの低く響く音色を聞かせてもらったこともよい思い出です。



9日(木)は、サザンクロス大学のナショナルマリンセンターで実習を行いました。環境問題に関する講義を聞いて実験を行い、岩場で海洋調査も行いました。天気には恵まれましたが、夏のオーストラリアの日差しは日本とは違ってとても厳しいものでした。

10日(金)は、現地校で過ごす最終日で、バディとともに一日授業を受け、夕方にはフェアウェルパーティーが開催されました。すっかり現地校での授業にも慣れ、パーティーでは現地での研究内容について発表を行いました。みんながホストファミリーの家族を前にして、暗記した言葉を伝えるのではなく、自分の言葉で感謝の気持ちを伝えている様子は、この1週間で英語での発信力が向上したことを物語っていました。広場では現地生徒によるバンドの生演奏があり、開放的な雰囲気の中で寿司やからあげなどの日本料理を食べながら、ホストファミリーとの会話を楽しみました。

11日(土)の朝にコフスハーバー空港を出発しました。何度も別れの言葉を交わしたり、涙を浮かべながらハグしたり、それぞれに別れを惜しましました。ホストファミリーではないにも関わらず、空港まで足を運んでくれた生徒もおり、現地での充実した時間を過ごせたことを実感しました。午後はシドニーを観光しました。メイン通りは、様々な人種が行き交っており、人の多さと建物の大きさに圧倒されました。社会問題に抗議の声を上げている複数の団体があり、世界有数の都市のエネルギーを実感しました。

わずか7日間の滞在でしたが、私たちはさまざまな異文化を体験し、同時に多くの共通点を見つけることができました。日に日に現地になじんで活動する仲間の様子からは、研修を通して様々なことに自信をつけていった様子が伝わってきました。この経験を糧に、今からますます活躍していきたいと思っています。

最後に、多くの方々のサポートのおかげで、安全に研修を行うことができたことに感謝して、研修報告とします。